



## こんなことあったよ！ のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和6年10月5日(土)

実践！オンサイト製炭

～栗園の剪定枝を炭にしました～ 編

のしろ白神ネットワークでは、廃棄物として費用をかけて燃やしてしまっているものを有効利用し、地球温暖化対策に活用できないか？を考えるきっかけにしたいと、一昨年から米代川の伐採支障木の製炭と活用に取り組んでいます(令和4年10月31日の活動レポート参照)。

秋田県立大学木材高度加工研究所(以下、木高研)では「木の香る道づくり」の土木分野のほか、農業分野での活用を進めるため、この日、仙北市西木町にある佐々木栗園にお邪魔させていただき、園内にたくさん残っている剪定枝を製炭し、実証試験を始めました。

木高研からの4人(石川、栗本、野田、渡辺)のほか、地域の方々5人が参加して下さり、10時半過ぎから作業開始。4月に能代から秋田河川国道事務所にご異動となった長崎さんも参加して下さいました。作業の流れを良くご存知なので心強い助っ人です。

園内の斜面脇等に山積みとなっている剪定枝を引っ張り出し、製炭器そばで折ったり切ったりして製炭器に入る長さにしていきます。園内が必ずしも平坦ではないので、昇ったり降りたりとなかなか体力のいる作業です。

種火ができれば、燃えすぎて灰にならないよう気をつけながら、剪定枝を製炭器に入れていきます。剪定枝を上重ねていくことで製炭器の下部は酸欠状態となって炭ができていきます。また、上部の重みで全体が少しずつ沈降していきます。終了時間を自由に決められるのが、この製炭方法の便利なところです。この日は15時に作業は終了しました。

できた木炭の全量は、一部の電気柵の周辺に撒きました。雑草が伸びて柵線に触れてしまうと漏電して電圧低下の原因となってしまうため、こまめな除草が必要となりますが、広い園内ではその管理は大変です。木炭散布による防草効果を期待しながら、継続的に観察していくことにしています。

文：渡辺 千明



電気柵周辺に土のう袋12個分の木炭を長さ3m70cm、幅50cm、厚さ10cmの範囲で撒きました。どの程度の防草効果があるのか、作業軽減につながるのか、来春からの観察が楽しみです。



簡易製炭器はステンレス製の4枚のパーツをアンカーでつないで組み立てます。底がないので、設置場所の水平をあまり気にせずに済みます。



園内のあちこちに溜まっている剪定枝を運び(上)、製炭器の近くで長さ1m弱にして、燃えすぎないように火加減をみながら投入していきます(中・下)。



最後は水をかけて消火し、よく混ぜながら冷まして完成です。